



## UCS Server Configuration Utility の起動

- [はじめに \(1 ページ\)](#)
- [cisco.com から ISO イメージを取得する \(1 ページ\)](#)
- [UCS-SCU のブート \(2 ページ\)](#)
- [UCS-SCU の終了 \(11 ページ\)](#)

### はじめに

UCS Server Configuration Utility (SCU) は 64 ビット Linux カーネルに基づくブート可能イメージです。シスコのラック サーバーで RAID 論理ボリュームの構成、オペレーティング システムのインストール、診断などの操作を実行できます。これは、一度に1つのサーバーで実行されるように設計されています。

### cisco.com から ISO イメージを取得する

サーバの ISO ファイルを検索するには、次の手順を実行します。

#### 始める前に

この手順を実行するには、有効なシスコのログイン情報が必要です。

**ステップ 1** [\[ソフトウェア ダウンロード \(Software Download\)\]](#) に移動します。

(注) シスコのログイン情報を使用してログインします。

**ステップ 2** [\[製品の選択 \(Select a Product\)\]](#) > [\[すべて参照 \(Browse All\)\]](#) をクリックします。

**ステップ 3** 最初の列で [\[サーバ/ユニファイドコンピューティング \(Servers - Unified Computing\)\]](#) をクリックします。

**ステップ 4** 中央の列で [\[UCS C シリーズラック搭載スタンドアロンサーバー ソフトウェア \(UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software\)\]](#) をクリックします。

**ステップ 5** 最後のカラムのサーバー モデルの名前をクリックします。

使用可能なソフトウェアのリストを含む新しいページが表示されます。

ステップ6 [ソフトウェア タイプの選択 (Select a Software Type)] リストで、[Unified Computing System (UCS) サーバー構成ユーティリティ (Unified Computing System (UCS) Server Configuration Utility)] を選択します。

[Download Software] ページが表示され、リリース バージョンおよび UCS-SCU イメージが示されます。

ステップ7 左側のペインから該当するリリースを選択します。

ステップ8 右側のペインにある [ダウンロード (Download)] アイコンをクリックします。

ステップ9 次の画面に進んでライセンス契約に同意し、ISO ファイルを保存する場所を参照します。

## UCS-SCU のブート

次のいずれかのオプションを使用して、UCS-SCU アプリケーションを起動できます。

- [vKVM マップ済みの vDVD の使用 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco FlexMMC vDVD の使用 \(3 ページ\)](#)
- [CIMC マップ済みの vDVD の使用 \(8 ページ\)](#)
- [物理メディアの使用 \(10 ページ\)](#)
- [ネットワーク ブート サポートの使用 \(10 ページ\)](#)

## vKVM マップ済みの vDVD の使用

始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com から ISO イメージを取得する \(1 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ1 Cisco IMC にログインします。

ステップ2 右上のメニューから[KVM の起動 (Launch KVM)] をクリックします。

(注) ブラウザの設定によっては、**KVM サーバ証明書**を受け入れ、KVM ビューアをクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

ステップ3 [仮想メディア (Virtual Media)] > [vKVM-Mapped vDVD] を選択します。

[仮想メディアのマップ - CD/DVD] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 ISO ファイルを参照して選択し、[Open] をクリックしてイメージをマウントします。

ステップ5 [仮想メディアのマップ-CD / DVD] ウィンドウから [マップ ドライブ (Map Drive)] を選択します。

仮想 KVM コンソールに次のメッセージが表示されます。

デバイス「vKVM-Mapped vDVD」にメディアが正常に挿入されました。

**ステップ 6** [電源 (Power)] > [システムの電源の投入 (Power Cycle System)] を選択します。

**ステップ 7** サーバーが起動したら、**F6** キーを押してブートデバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

**ステップ 8** 矢印キーを使用して、**vKVM-Mapped DVD** を選択し、**Enter** キーを押します。

サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。

---

## Cisco FlexMMC vDVD の使用

### 始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com から ISO イメージを取得する \(1 ページ\)](#) を参照してください。

---

**ステップ 1** Cisco IMC にログインします。

**ステップ 2** [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [ストレージ (Storage)] メニューをクリックします。

**ステップ 3** [ストレージ (Storage)] メニューで、[Cisco FlexMMC] を選択します。

**ステップ 4** [Cisco FlexMMC] ペインの [コピーされたファイル (Files Copied)] 領域で、[ファイルのアップロード (Upload Files)] タブをクリックします。

[Cisco FlexMMC のアップロード ファイル] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 5** [Cisco FlexMMC のアップロード ファイル] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

フィールド	説明
[パーティション (Partition) ] ドロップダウン リスト	<p>パーティションのタイプ次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>IMC イメージ</b> : Cisco .iso ファイル。</li> <li>• <b>ユーザ ファイル</b> : 任意の .iso、イメージ、またはその他のファイル形式。</li> </ul> <p>アップロードできるのは 1 つの .iso ファイルのみです。</p> <p>(注)      他のファイル形式を選択した場合、Cisco IMC はファイルをイメージファイルに変換します。</p> <p>その他のファイル形式の場合、ファイルサイズは 10 MB を超える必要があります。また、変換のために余分なスペースが必要です。</p>
[Mount Type] ドロップダウン リスト	<p>マッピングのタイプです。次のいずれかになります。</p> <p>(注)      選択するマウント タイプの通信ポートがスイッチ上で有効になっていることを確認してください。たとえば、マウントタイプとして CIFS を使用する場合、ポート 445 (CIFS の通信ポート) がスイッチ上で有効になっていることを確認します。同様に、HTTP、HTTPS、または NFS を選択する場合は、ポート 80 (HTTP の場合)、ポート 443 (HTTPS の場合)、またはポート 2049 (NFS の場合) を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [NFS] : ネットワーク ファイル システム。</li> <li>• [CIFS] : 共通インターネット ファイル システム。</li> <li>• [WWW(HTTP/HTTPS)] : HTTP ベースまたは HTTPS ベースのシステム。</li> </ul>

フィールド	説明
[リモート共有 (Remote Share) ] フィールド	<p>マップするイメージの URL。形式は選択された [Mount Type] によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [NFS] : serverip:/share を使用します。</li><li>• [CIFS] : serverip://share を使用します。</li><li>• [WWW(HTTP/HTTPS)] : http[s]://serverip/share を使用します。</li></ul>
[Remote File] フィールド	リモート共有に含まれる .iso または .img ファイルの名前と場所。

フィールド	説明
[マウントオプション (Mount Options) ]フィールド	

フィールド	説明
	<p>カンマ区切りリストで入力される業界標準のマウントオプション。オプションは選択された [Mount Type] によって異なります。</p> <p>[NFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ro</b></li> <li>• <b>nolock</b></li> <li>• <b>noexec</b></li> <li>• <b>soft</b></li> <li>• <b>port=VALUE</b></li> </ul> <p>[CIFS] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次の中から 1 つ以上を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ro</b></li> <li>• <b>nounix</b></li> <li>• <b>noserverino</b></li> <li>• <b>port=VALUE</b></li> <li>• <b>[Ntlm]</b> : NT LAN Manager (NTLM) セキュリティプロトコル。このオプションは、Windows 2008 R2 および Windows 2012 R2 でのみ使用します。</li> <li>• <b>vers=VALUE</b></li> </ul> <p>(注) 値の形式は x.x である必要があります</p> <p>[WWW(HTTP/HTTPS)] を使用している場合は、このフィールドを空白のままにするか、次のように入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>noauto</b></li> </ul> <p>(注) 仮想メディアをマウントする前に、Cisco IMC はサーバーに ping を実行することによって、エンドサーバーへの到達可能性の確認を試みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>username=VALUE</b></li> </ul>

フィールド	説明
	• <b>password=VALUE</b>
[ユーザ名 (User Name) ]フィールド	指定した [マウントタイプ (Mount Type) ] のユーザ名 (必要な場合)。
[パスワード (Password) ]フィールド	選択されたユーザー名のパスワード (必要な場合)。

**ステップ 6** 右上のメニューから **[KVM の起動 (Launch KVM) ]** をクリックします。

(注) ブラウザの設定によっては、**KVM サーバ証明書**を受け入れ、**KVM ビューア**をクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

**ステップ 7** **[電源 (Power) ] > [システムの電源の再投入 (ブート) (Power Cycle System (boot)) ]**

**ステップ 8** サーバーが起動したら、**F6** キーを押してブート デバイスを選択します。

ブート選択メニューが表示されます。

**ステップ 9** 矢印キーを使用して、**vKVM-Mapped vDVD** を選択し、**Enter** キーを押します。

サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、**[KVM]** タブでアプリケーションを起動します。

## CIMC マップ済みの vDVD の使用

### 始める前に

cisco.com から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com から ISO イメージを取得する \(1 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** Cisco IMC にログインします。

**ステップ 2** **[計算 (Compute) ] > リモート管理 (Remote Management) ] > [仮想メディア (Virtual media) ]** の順に選択します。

**ステップ 3** **[仮想メディア (Virtual media) ] タブ > [現在のマッピング (Current Mappings) ]** 領域で、必要なマッピングを確認します。

**ステップ 4** 右上のメニューから **[KVM の起動 (Launch KVM) ]** をクリックします。

(注) ブラウザの設定によっては、**KVM サーバ証明書**を受け入れ、**KVM ビューア**をクリックする必要があります。

仮想 KVM コンソールにサーバー コンソールが表示されます。

- ステップ 5** [仮想メディア (Virtual Media) ] > [CIMC-Mapped vDVD] を選択します。
- [仮想メディアのマップ - リムーバブル ディスク (Map Virtual Media - Removable Disk) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** [仮想メディアのマップ - リムーバブル ディスク (Map Virtual Media - Removable Disk) ] ウィンドウで、次の手順を実行します。
- CIMC-mapped デバイスに希望の名前を入力します。
  - 次のいずれかのプロトコルを選択します。
    - NFS
    - CIFS
    - HTTP/S
- デフォルトでは、HTTP/S が選択されています。
- ファイルの場所を次の形式で入力してください。  
`[http[s]://server-IP|DNS-name:Port/path-to-file.img`
  - ユーザ名とパスワードを入力します。
  - CIMC マップ デバイスに希望の名前を入力します。
  - (オプション) [自動再マップ (Auto-remap) ] を選択します。
- ステップ 7** [Save (保存) ] をクリックします。
- ステップ 8** [マップ ドライブ (Map Drive) ] を選択します。
- ホストによってこのメディアが取り出されると、Cisco IMC は自動的にこのデバイスを再マップします。
- ステップ 9** ISO ファイルを参照して選択し、[Open] をクリックしてイメージをマウントします。
- 次のメッセージが仮想 KVM コンソールに表示されます。
- デバイス「CIMC-Mapped vDVD」にメディアが正常に挿入されました。
- ステップ 10** [電源 (Power) ] > [システムの電源の再投入 (ブート) (Power Cycle System (boot)) ]
- ステップ 11** サーバーが起動したら、F6 キーを押してブート デバイスを選択します。
- ブート選択メニューが表示されます。
- ステップ 12** 矢印キーを使用して、CIMC-Mapped vDVD を選択し、Enter キーを押します。
- サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、[KVM] タブでアプリケーションを起動します。

## 物理メディアの使用

### 始める前に

- [cisco.com](http://cisco.com) から UCS-SCU ISO イメージファイルをダウンロードします。イメージをダウンロードする方法については、[cisco.com](http://cisco.com) から [ISO イメージを取得する \(1 ページ\)](#) を参照してください。
- .iso CD を書き込むアプリケーションを使用して .iso CD 作成します。

---

**ステップ 1** USB ポート経由でサーバーに USB DVD ドライブを接続します。

**ステップ 2** DVD ドライブに物理メディアを挿入します。

**ステップ 3** サーバを再起動し、**F6** キーを押してブート選択メニューを表示します。ブートデバイスとして **CDROM** ドライブを選択します。

サーバーは UCS-SCU イメージを使用して起動し、アプリケーションを開始します。

---

## ネットワーク ブート サポートの使用

### 前提条件

- PXE のインストールには、少なくとも 2 つのシステムが必要です。
- サーバー：ブート ファイルを提供する DHCP サーバー、TFTP サーバー、HTTP または FTP サーバーを実行しているシステム。理論的には、各サーバーは異なる物理システムで実行できます。このセクションの手順は、簡単にするために、単一のシステムですべてを実行することを前提としています。
- クライアント：SCUIISO を起動しているシステム。インストールが開始されると、クライアントは DHCP サーバーにクエリを実行し、TFTP サーバーからブートファイルを取得します。

### PXE レガシー ブート



---

(注) 次のファイルは、マウントされた SCU ISO から取得できます。

- `initrd`
  - `bzImage`
  - `rootfs.img`
  - `ucs-scu-container-xxx.squash.fs`
-

1. /var/lib/tftpboot ディレクトリの下でのブートローダ PxeLinux.0 をコピーします。
2. /var/lib/tftpboot ディレクトリの下での PxeLinux.cfg をコピーします。
3. /var/lib/tftpboot ディレクトリの下でのマウントされた SCU ISO から initrd および bzImage ファイルをコピーします。
4. /var/www/html ディレクトリまたは /var/ftp/pub ディレクトリの下での rootfs.img、ucs-scu-container-xxx.squashfs、および ドライバフォルダをコピーします。

#### PXE UEFI Boot

1. (EFI/BOOT) ディレクトリにある抽出した SCU ISO から /var/lib/tftpboot ディレクトリの下での bootx64.efi をコピーします。
2. /var/www/html ディレクトリまたは /var/ftp/pub ディレクトリの下での rootfs.img、ucs-scu-container-xxx.squashfs、および ドライバフォルダをコピーします。

```
niosscubootmedium=pxe #type of the boot pxe/http/ipxe
```

## UCS-SCU の終了

---

**ステップ 1** ディスク ドライブから .iso ディスクを取り出します。

**ステップ 2** [Reboot] をクリックして、サーバーのリブートを確認するために [Yes] をクリックします。

---



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。